

茅ヶ崎 自然の新聞

18年3月号(271号)

【編集】

茅ヶ崎自然の新聞編集委員会

【発行】

茅ヶ崎市文化資料館

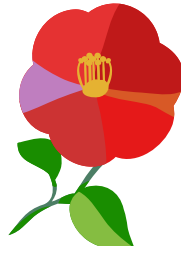
〒253-0055

茅ヶ崎市中海岸2-2-18

TEL&FAX: 0467-85-1733

Mail: shiryokan@city.chig

asaki.kanagawa.jp



2/19(日)

自然観察についての感想

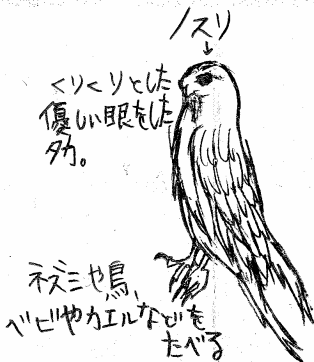
藤沢、引地川親水公園で野鳥観察をしてきました。
いろいろな鳥を見てきました。

見た鳥は、「スズリ」、「トビ」、「カルガモ」、「マガモ」、
「ハシビロガモ」、「コガモ」、「ゴイサギ」、「アオサギ」、
「コサギ」、「カワウ」、「キセキレイ」、「セグロセキレイ」、
など、いろいろな鳥でした。「アオサギ」は、首を
スッと伸ばして、きれいにたっている姿が印象に残り
ました。でも、今回の自然観察会でうれしかったのは、
「カワセミ」も2回も見たことです。

1回目はあまり見えなかったけど、2回目は目の前をヒューと
飛んでいく姿がみれました。せなかの宝石のような「バルトブルー」
の色が太陽でキラキラしていました。こんな近い距離でみられたので
頭がいっしょに真白になりました。

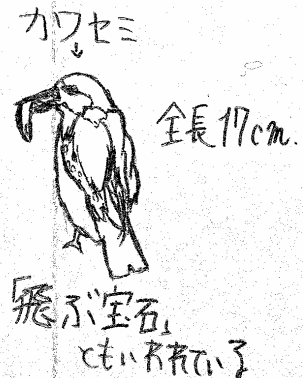
さむか、たけと、たきな鳥もみれたので、楽しかったです！

佐々木 可南



スズリと似た優しい眼を注ぐ
スズリ

スズリ
全長 ♂ 52cm
メ 57cm



カワセミ
全長17cm
飛ぶ宝石
をみられた

12月の花ごよみ(柳島海岸)

12月6日、斉藤・吉田・石井の3人で花ごよみの観察会に出かけました。いつものように柳島下水道センターの横を海岸方向に入りました。

道端^{みちばた}でヒメショオン、イヌタデなどが寒さに耐えて咲いているのに対して、植え込みのヤツデだけは元気良く、白い花が一層目立ちました。雄性期^{ゆうせいき}の花、雌性期^{じせいき}の花(※1)、若い実がそろい、小さな虫が周辺を飛び交っていました。マサキの海岸性変種といわれるツルオオバマサキは、裂開^{れつかい}しかかった実を大量につけていて、葉腋には冬芽も見られました。

柳島キャンプ場横のトベラの実は、まだ緑色の大きな若い実でしたが、この日、後に見た海岸の砂防林のトベラの実は、日当たりが良いためかすっかり3裂に割れ、粘った赤い種子が輝いていました。

しばらく行くと、エノキの枝先の葉と実が小枝ごと地面一帯に落葉していました。今まで気付かなかったけれど、近似種のケヤキと同じようなところがあるのだと分かりました。けれど、落ちた状態から見ると、ケヤキのようにヘリコプター状に広い範囲に飛ぶことはなく、そのまま落下したようでした。シロダモの木は終りかけた花と赤く熟した実が同時に見られました。寒い冬が過ぎて来春になれば、シロダモの若葉は、銀色の絹毛におおわれて垂れ下がり、今芽吹き始めたタブノキの冬芽は真っ赤に紅葉することでしょう。

下水道センター側のフェンスには茶色い実をつけたヘクソカズラがからまっていました。普通のヘクソカズラかハマサオトメカズラか今回も結論が出ませんで

した。同じようにフェンスにからまった食用になるという黒いエビツルの実を3人で食べてみましたが、酸っぱさと渋さに口がしびれました。

キャンプ場に入ると、季節からクリスマス飾りにでもしたいようなテリハノイバラのきれいな赤い実が見られました。キャンプ場の中では、市内ではここだけに生育しているというセンダングサが健在で多くの実をつけているのを確認しました。黄色い舌状花まで見えるのもわずかにありました。

今まで、柳島海岸でもキャンプ場の中以外でセンダングサを見たことはなかったのですが、この後行った海岸の砂防林前の野草群の中に、実をつけたセンダングサを初めて一株発見しました。キャンプ場から種が飛んできて根づいたのでしょう。この辺りでまん延している帰化種のコセンダングサに負けず繁殖することを期待します。

※1…1つの花が、雄しべの時期(雄性期)と雌しべの時期(雌性期)を持つ種があります。(ヤツデ、チューリップなど)

(東海岸南 石井準子)

今冬のシジュウカラ

11月半ばになると、餌台^{えさだい}にシジュウカラのためにヒマワリの種を提供している。はじめてから7年位になる。

12月になると、例年は朝から夕方まで常時5~6羽、少ないときでも2~3羽はやって来て種をついばむ。3~4m離れたイヌツゲとモクレンの枝に止まり、脚で種を押さえてつついて食べる。一緒にメジロも来るし、おこぼれを目当てにスズメも来る。

それが、今冬はちっとも来ない。たま

2月の柳島の花暦

2月6日(月)、曇りというより曇天と
いいたくなる寒い日でした。

1月は花暦をお休みしたので、2月は
初旬の雪が残っている日に、いつもの同
じ道を歩いてきました。海岸方面には残
雪はありませんでしたが、花もなく、実
も終りに近く、サンゴジュの並木には、
赤い実は一つもありません。ツルオオバ
マサキの仮種皮(種子をおおっている)
は、赤みを増していましたが、ぶらさが
ってついているはずの橙赤色の種子は落
ちてしまったか、鳥にたべられたようで
ほとんどありません。でも木々に冬芽が
あります。アオキの芽は割ってみると、
小さな蕾をたくさん持った花芽でした。
タブノキの赤い芽はまだ小さかったけれ
ど、葉と花になる混芽でしょう。

キャンプ場の庭には、イヌビワの木が
多く、たくさんの枯葉が落ちていました。
けれども、ほとんど葉の落ちていないの
も、葉を全部落としたのもあり、その差
は木の大小でもなく、日当たりの差でも
なさそうです。この辺にはセンダングサ
とコセンダングサがあり、ズボンの裾
につく実は今も残っています。アメリカ
センダングサは、少し湿った土地でな
いと生育しないそうです。イヌハウズキ
の仲間が1本、葉は落ちかけていました
が紫黒色の実がたくさんついていました。

海岸に出たところは暖かく、人の手も
入っていないようで、観察するのがおも
しろいところ。この日はここだけ、トベ
ラの実が3つに割れた中に、ねばねばし
た赤い種がちゃんと残っていました。砂
山のウンランの自生地(植えられた?)
には、今は何もありません。ここを曲が
った砂防林中に、半常緑のはずのスイカ
ズラが葉をつけたままたくさんからみあ
ってました。

しおさい公園では、オオバヤシャブシ

の丸い花穂がよく目立っています。セイ
タカアワダチソウの綿毛がまだあります
し、オオアレチノギクは咲いています。

どこかでメジロがさかんに鳴いていま
した。

(東海岸南 吉田弥生)

色は匂えど散りぬるお

2月10日、紅梅が庭の片隅に花を
つけた。10年ほど前に、曾我の梅林の
梅祭りで購入した。花はきれいだが、実
は



期待できないと言われたが、初年度に3
個、その後に5~6個は実をつけている
ようだ。ヒヨドリ、ムクドリ、カラスが、
実り具合を調べては天の恵みとしている
ようだ。この木は、入手したときは3
センチ径くらいだったと記憶している、
今では10センチくらいに太った。枝の
分かれ目にはイラガの繭の抜け殻までち
ゃんと残っている。数年前に、イラガが
大繁殖したことがあった。



(菱沼海岸 井川洋介)

に1~2羽来ても種を啄ばまない。初冬は暖かくてまだ虫を捕まえているのかと思っていたが、違う気もする。

12月16日に見ていたら、シジュウカラ2羽とメジロ1羽が来た。シジュウカラの1羽がヒマワリをくえたが、つつき割ることをしない。メジロはそばにある籠の中のミカンには近寄らず、水を一口飲んでよそへ行ってしまった。以前は、籠の中に入ってつついたのに……。

シジュウカラは100%殻を割って食べるものと思っていたのがそうでもなかった。淋しく見ている。

(中海岸 佐々木三智雄)

カルガモの尻餅着水

12月16日午前7時30分頃中央公園をウォーキング中、市役所側の池に差し掛かったときでした。突然バタバタとカルガモの^{ツガイ}番が、氷の張っている池に下りてきました。

ところが、2羽とも滑って尻餅をついたのです。「エッ」と、びっくりして見ていると、当人(?)達も驚いたような表情をし、すぐに左右を見回してまるで何事もなかったように、ツーンと澄ました表情をしました。私は、「見たぞ!見たぞ!」と思わず笑ってしまいました。

公園を一周してから池を見ると先ほどの所に2つの穴がありました。渡り鳥でも尻餅なんてどじを踏むのだろうか。数日前から急にやってきた寒さに油断をしていたのだろうか。愉快的出来事でした。

(茅ヶ崎 中原和男)

ハクセキレイねぐら

2月12日夕方、情報を聞き茅ヶ崎駅南口に行きました。

バスターミナルのホルトの木に、夕方5時10分ごろからハクセキレイが、あちこちから群れで集まってきました。駅の屋根に5~10羽単位の群れにわかれてとまりました。夕日が沈むころには、木に群れ10羽単位で、何回も何回も羽ばたきしたり、ホバリングしながら木に入っていました。数えるのに、カウンターが役に立ちました。

夕日が沈み、空が暗くなると騒がしく鳴いていたのが静かになり、あたりは通勤や買い物かえりや、自動車などのざわめきだけになりました。

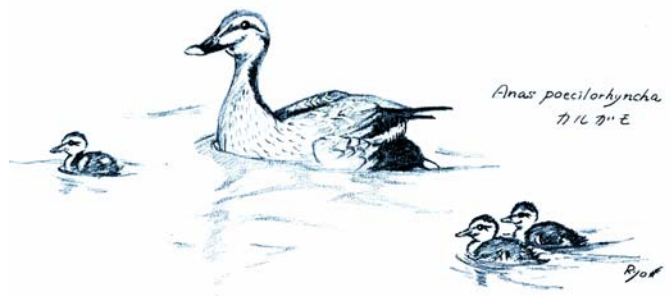
どこから、こんなに集まってくるのでしょうか。548羽ものたくさんのハクセキレイを見たのは初めてです。

バスの運転手さんによると、3年前から毎夕ねぐらになっていて、初めは中央の木をねぐらにしていたが、木が刈られたため、道に並んだ木に移ったそうです。

木の下はたくさんの糞がありましたが、道の端なので人には迷惑をかけてはいません。

こんなに人通りの激しい、うるさいところで集団で眠るのは、危険がない安全なところと判断した野鳥の知恵なのかと感心しました。

(東海岸南 河村まき子)



小出川の花暦

2006年1月17日、今年になって初めての観察会。10時頃は青空で風が結構冷たかった。浜園橋の右岸から下町屋橋まで下り、左岸を戻って来るコースを取ることにした。

花は、オオイヌフグリ、ホトケノザ、セイヨウタンポポしか見当たらず、ヘクソカズラ、コセンダングサ、イヌホウツキ、ヨシ、セイダカアワダチソウ、ノゲシ、ノイバラが昨秋つけた実を大切にまだ持っていた。ナナホシテントウだけが歩き回っている。コカマキリの卵をみつけた。その傍のヘクソカズラの実に、真綿のようなものが絡んでいる。何かの卵か、冬ごもりの生き物がいるのか判らなかつた。

そんな冬枯れの中を進んでいくと、こんもりした常緑樹の茂る「木の実の散策路」に来た。クコの赤い実や、コムラサキシキブの紫、ピラカンサスのオレンジ、ロウバイの黄、よく見るとカラフルだ。見上げると、花と実が同時に見られるシロダモや、ミズキ、アオキ、クロモジ、クス、スダジイ、ガマズミ等名札のついているのもあるが、モチノキとクロガネモチ、ネズミモチとトウネズミモチは3人でおおいに議論した。鳥のために植えられたので実物が多い。

中原橋の近くでは、ムク、シャリンバイ、センダンの実生で大きく成ったのに出会った。またたくさんの冬鳥にも出会った。コガモ、カルガモの中にいきなりハシビオガモ、オオバン、バン、イソシギまでも…。ハクセキレイ、ダイサギもいました。

いつの間にか国道1号線まで来ていた。空が曇りだし、風が止んで暖かくなった。

もう春が動き出したのかしら…。左岸に移って菟園橋の先にいる、ミコアイサを見に行こうということになった。モズ

(メス)、ホオジロ、カワセミ、ノスリ(チヨウゲンボウ)、お目当てのミコアイサも無事見られて満足の一時でした。



2月21日10時、浜園橋、陽射しは少しあるが、風は春まだ浅く冷たい。最高気温は10℃止まり。山は霞^{かすみ}んではっきりとは見えない。河野さんと2人だけの観察会となった。

浜園橋から右岸を下ると、対岸に紅白の幕を引いたように紅梅、白梅の並木が見頃を迎えている。梅に見惚れたせいかわ、前回見たオオイヌフグリと、セイヨウタンポポが見当たらない。ホトケノザだけが見つかった。

ヘクソカズラ、ノイバラ、コセンダングサ、イノコズチ、グミの実はまだ付いている。ヨシやセイダカアワダチソウの藪^{やぶ}の中にハルノノゲシの花が咲いていた。

「木の実の散策路」ではトウネズミに少し実が有り、トベラの実は終っていた。花が無いので、自然に川に目が行く。先日来の雨で水量が多く、濁^{にご}っている。いつもいる場所より少し下った辺りにカルガモやコガモ、それとまた離れてヒドリガモが24ペアもいた。その中にオオバンがまだいた。近くにバンもいるはずと、繁みに目を凝^{こら}らすと、番^{ばん}で動き回っているのを見つけることが出来た。

下町屋橋から左岸に移り、ヤブツバキにはヒヨドリ、ムク、キジバト、土手の下の繁みにカワラヒワ。そして、美しいジョウビタキのオスが何度も私たちに歩いて来る。

この日も菟園橋まで足を延ばした甲斐あって、オオイヌフグリがいっぱい咲いている所があった。ミコアイサは見られなかったが、ダイサギ、コサギ、ツグミ、オカヨシガモを見ることが出来た。

(浜之郷 斎藤和子)

ローズマリーで匂い袋

2月19日、我が家の庭のローズマリーは、紫色の小さな花(約7mm)をつけています。葉は地面に這うように垂れ下がるので、その部分を適当に切って束ね、雨に当たらずよう軒下などに干します。充分乾燥させてから葉のみを取って、木綿の小袋につめて出来上り。

タンスやバックに入れておくと、よい香りがします。その他、花は料理に飾り、砂糖漬けにもします。

葉は、抗菌作用や酸化防止作用があります。

(香川 後藤)



ムクドリのおぐら

夕方5時近くになると、東海岸南の我が家の前の電線に、1本あたり50羽のムクドリが、電線が切れるのではと思うくらいとまります。並んで鳴きながら、帰ってくる仲間を待っているようです。

集まる数は507羽、そして5時45分ごろ、暗くなる前に一斉に住宅のささやぶに消えていきました。

電線の下は糞が散乱して、その中にはセンダンの種がたくさん落ちていました。

1月20日から2月25日現在まで、毎日やって来ます。夕間にそまった群れはなかなか壮観です。

(東海岸南 河村まき子)

タゲリもうすぐシベリアに

昨年10月下旬からタゲリが渡来していた。1月28日には求愛行動が見られ、羽根の色も美しく輝き、渡来した時より丸く、行動も活発になってきました。

羽根を大きくはばいたり、ピョンピョンと飛んだり、まるで踊っているようです。

毎年行っている一斉調査では、今年度は、野鳥の会神奈川支部の協力で15箇所、茅ヶ崎周辺では昨年より7羽少なく26羽、神奈川周辺では65羽ほどしか確認できませんでした。

田んぼの減少の影響でしょうか。20年前には、茅ヶ崎では、100羽を超える渡来数の記録があります。

また今年の行動は、2羽から5羽の群れでの移動が多く、総数が一群の群れなのか、2群の群れの集まりかわかりませんが、記録では、もう少し群れの数は多いようです。2月に入ると、西久保に30羽の群れの確認がありました。

もし茅ヶ崎周辺に今いる群れが1群だけであれば、今年にはたして渡来するのか心配です。

タゲリは、湿ったところを好み田んぼの虫やミミズなどを食べます。

茅ヶ崎の田んぼも、年々減少しているので歯止めになればと、市民が湘南タゲリ米のブランド米の販売を立ち上げ、たくさんの方がお米の買い上げに協力しています。このシステムに賛同して下さる方は、県内県外にも広まってきましたが、タゲリ渡来地を守るのは、市民の協力が大きな力になります。

タゲリの越冬地を守るために、お米5キロを買って食べると8畳分の田んぼが守れます。

(東海岸南 河村まき子)

カンムリカイツブリ報告

3月9日朝7時、茅ヶ崎海岸でカンムリカイツブリを1羽ずつ合計4羽見ましたので報告いたします。

（今宿 矢嶋興一）

アカウミガメの骨が漂着

2月22日、北風の冷たい東海岸のヘッドランド東側に、アカウミガメの骨の一部が漂着した。チラッと見ただけで、骨片の両サイドに歯車状の形をした独特のものだったので、ぴんときた。犬の散歩中だったのですぐ持参のポリ袋に入れ持ち帰る。

アカウミガメの骨は、脂肪を多く蓄えているのでなかなか乾燥できない。庭先の木の枝に紐^{ひも}でぶら下げて天日乾燥にした。毎朝カラスが来ては骨の形が変わるほどついばんでいった。どこを食べたか観察に行った。骨の髄^{つゐ}までという言葉のとおり、厚み3センチくらいの骨の髄と歯車のような形の部分までかじり取ってあった。（写真参照）



亀の骨は、油脂に漬け込んだようで、

刺身でいえばオオトロのように脂肪が密になっている。庭木に数年間ぶら下げてある古い年代物もあるが、脂肪分は骨の中で酸化して固まっているようだ。10年ほど前に焚き火で火葬にしたら、粉々になっていた。

（菱沼海岸 井川洋介）

ウグイスのさえぎり

3月3日、孫を連れて小田原城公園を訪ねる。紅梅も二種類、もっとあるかもしれないが色彩では2種類とを感じる。白梅一種あった。老人がデジタル一眼レフに大きな望遠レンズをつけ、梅の木の間を真剣なまなざしで歩き回っていた。私たちも気がついたが、ウグイスが木の枝を飛び回っていたのだ。目の周りは白くない。老人が得意げに見せてくれた写真には、目の周りが白いメジロがきれいに撮影されていた。

メジロは、茅ヶ崎の自宅にもよくくる。必ずつがいで木の枝を上下している姿を見かける。この老人にとってはすばらしい生涯学習といえる趣味であると思う。写真を来園の客に見せては、嬉しそうに顔を輝かせていた。笑顔に接するのは、こちらもちもちが豊かになるものだ。

3月4日午後5時半、北風が寒い浜に出てみる。最近のごみの漂着場所がここ15年間でかなり変化していることに気がつく。東海岸のヘッドランド東側から菱沼海岸にかけて、深海に住むサクラエビが波打ち際に線を引くように打ちあがっていた。

3月5日、犬の散歩に海岸へ出る。東海岸南の開高健記念館あたりにウグイスの囀^{さえず}りを聞く。

（菱沼海岸 井川洋介）

鳥のエサ

年を重ねたせいとも考えているが、今年の寒さの繰り返しは何か異常な感じを持っている。毎年、小田原の久野という南側斜面の土地になるみかんをいただいているが、なんとなく糖分がすくないことを感じている。我が家の八朔、甘夏（苦味、酸味で夏まで置かなければ口が拒否する）をカラスが珍しく食べに来る。昨年まではまずいので、鳥もよらないと思い込んでいたのに、下の写真の穴のあけ方まさに想定外だった。鳥のほうも想定外にえさが不足しているのだろうか？



（菱沼海岸 井川洋介）

アズマヒキガエルの産卵

3月8日（水）、文化資料館の北側のピオトープで、アズマヒキガエルの卵塊を見つけました。昨年（2005年）は、3月13日に産卵が行われました。



（文化資料館 須藤 格）

文化資料館の目

ソメイヨシノの開花よりひと足早く春をつげるのが、モンシロチョウです。地域的に点々と発生するため、サクラのように前線を描くことは出来ませんが、季節の変化を感じることはできます。

気象庁では、生物季節観測といって、ウメやサクラなどを、統一した基準での観測を、全国で行っています。モンシロチョウの初見日は、「2番目に観察した日」を参考としています。何らかの理由によって、とんでもない時期に羽化する個体があるからです。そのため、統計学の一番下と一番上の数字を切り捨てて平均値を出す考え方と同様に、2回目に観測した日を初見日としています。

さて、みなさんの身の回りでのモンシロチョウの初見や、ウグイスの初鳴きはありましたか？

（文化資料館 須藤 格）

植物の種の学名

植物の種の学名は、はじめに属名を書き、次に種小名を書き、ふつう最後に命名者の名を添記する。

ムラサキヤシオ(ミヤマツツジ)の場合は、*Rhododendron albrechtii Maxim*であり、*Rhododendron*が属名で、中性名詞、単数、主格であり、種小名の *albrechtii* は、男性名詞の単数所有格である。名詞所有格 *albrechtii* はアルブレヒトが自分自身で採取した事を示す。もしこの時、形容詞が用いられている場合は、単にその人物を記念して命名したことを示す。例えば、アズマザサの仲間のスエコザサは、*Sasa Suwekoana Makino* と記し、*Suwekoana* はすえこ夫人自身が採取したのではなく、牧野博士が単に夫人を記念して命名した事を示す。最後の *Maxim* は命名者マクシモヴィッチの略である。

植物の図鑑等を調べる時に、この様な事にも注意を払うと興味が一層深まると思う。

(藤沢市藤が岡 小原 敬)

ユリウス暦とグレゴリオ暦

我国のこよみには、太陰太陽暦(旧暦)と太陽暦がある。さらに太陽暦には、ユリウス暦(B.C.46年ローマのユリウス・カエサルが作らせた)とグレゴリオ暦(1582年ローマ教皇グレゴリウス13世が作らせた)がある。

8月に行なわれる仙台の七夕祭りは、旧暦によるものであり、平塚の七夕祭りは7月に行なわれるので太陽暦(詳しくいえばグレゴリオ暦)によっている。欧米でクリスマスは12月25日に祝うのは、グレゴリオ暦によったものであり、1月6日ごろに、ロシアで西欧のクリス

マスに相当するヨールカ祭りを行なうのは、ユリウス暦によったものである。ロシアでは、10月革命前はユリウス暦を用いていたが、革命後はグレゴリオ暦を用いるようになった。

マクシモヴィッチは、1860年9月18日函館に来航している。英国のロンドン郊外チェルシーの園芸家ヴィーチは、同じく1860年9月に英国の総領事ラザフォード、オルコック達と富士山に登り、熱海温泉で静養し、和紙の製造法を調査している。ヴィーチは一足先に神奈川に帰った。そして9月24日神奈川を発ち函館に向った。マクシモヴィッチの記事によれば、彼が函館に着いた9月18日は、すでにヴィーチ達が函館に到着し、附近の植物の調査を済ませていたという。何故この様なことになったのか。

この日付の逆転は、ヴィーチはグレゴリオ暦を使い、マクシモヴィッチは、ユリウス暦によっていたからと推定される。ヴィーチは、9月24日に神奈川を出航しているが、ユリウス暦とグレゴリオ暦の差は12日なので、マクシモヴィッチ風と言えば9月12日ごろ出航したことになる。また逆にマクシモヴィッチが9月18日に函館に到着したとあるのは、グレゴリオ暦に還算すると9月30日ごろになると思われる。

国立科学博物館の植物研究部長であった奥山春季先生が大分前に、「アルブレヒトの記事の中の年月日に辻褄^{つじつま}が合わない所があるが、どうしてか？」と筆者に質問された事がある。おそらくアルブレヒトは、当時帝政ロシアの公用暦であったユリウス暦を用いていた為、年月日に辻褄が合わない所が出てきたのであろう。

資料を読む時はもちろん、ロシアの文学などを読む場合もこのような点に関心を持つ必要があると思う。

(藤沢市藤が岡 小原 敬)

Information

案内

おしらせ

●「茅ヶ崎自然に親しむ会」

『町田・七国峠一境川の源流を訪ねる』

日時：4月16日(日)

問い合わせは

安井利子(52-3856)まで

●「清水谷を愛する会」

日時：4月2日(日)9時30分

～15時

集合場所：市民の森駐車場(堤)

問い合わせは

田部許子(51-2955)まで

●「柳谷の自然に学ぶ会」

『谷戸の木をみよう』

日時：4月23日(日)

集合場所：里山公園

問い合わせは、

野田晴美(51-8489)まで

●「三翠会」

三翠会では、市内の川や水辺の生きもの調査やタゲリをはじめとする野鳥観察、お米(タゲリ米)づくりのお手伝いなどに取り組んでいます。ご協力いただける方は、下記までご連絡下さい。

事務局：河村まき子(87-8313)

●「大庭自然探偵団」

『大庭自然観察会』

日時：4月9日(日)10時～

集合：湘南大庭市民センター駐車場

問い合わせは、滝沢まで

(0466-88-5306 夜間)

●「駒寄川水と緑と風の会」

『市外』(日時および場所は未定)

日時：4月2日(日)

集合：民俗資料館(旧和田家)10時30分

問い合わせは、

池田尚子(52-8919)まで

★次号の原稿の締め切りは、5月9日(火)までをお願いいたします。

★文化資料館のホームページを、更新しています！チェックしてみてください。

<http://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/newsection/shougaku/shiryokan/index.html>

★「ちがさき丸ごとふるさと発見博物館」のホームページをみましょう！
http://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/newsection/shougaku/bunkazai/marugoto/index_marugoto.html

記事募集！

自然の新聞では、様々な方からの投稿をお待ちしております。メール、fax、手紙でOKです。

FAX：0467-85-1733

メールアドレス：

shiryokan@city.chigasaki.kanagawa.jp
までよろしく申し上げます。



3月4日(土)(旧和田家にて)